

# 2021年度中間事業報告

横浜市  
市民協働  
推進センター



# 2021年度 全体方針

事業計画書より



# 昨年度の成果と課題

コロナ禍の影響を強く受けた1年。

## 【成果】

- 「**市民公益活動緊急支援事業**」を実施  
⇒255団体へ助成するとともにコーディネーターによる活動に対するサポートを実施
- イベントやセミナーを主にオンラインで実施

## 【課題】

- 機能の周知
- 協働ラボとスペースA・Bの貸館のコンセプトやルールの周知

# 2021年度 事業推進の方向性

サステイナブル（持続可能）な社会のあり方・  
暮らし方について

学び合い、つながり、動く場を積極的にしかけ、  
協働のきっかけをつくる

# 2021年度 重点テーマ

- **協働に関する理解促進の場づくり  
協働のプロジェクトが多く生まれていく土壌づくり**
- **センター機能の周知**
- **共創・協働推進のコーディネート人材の充実**

**市民協働推進センター運営事業者の企画・提案をもとに、市民局も参画し、意見交換を重ねながら協働で事業を行っています。**

# 5つの事業

## 総合相談 窓口事業

- ・協働のコーディネート
- ・市民活動に関する相談

## 情報活用・ 事業手法創出 事業

## 交流・連携 事業

「対話&創造ラボ」

## 市民活動団体 支援事業

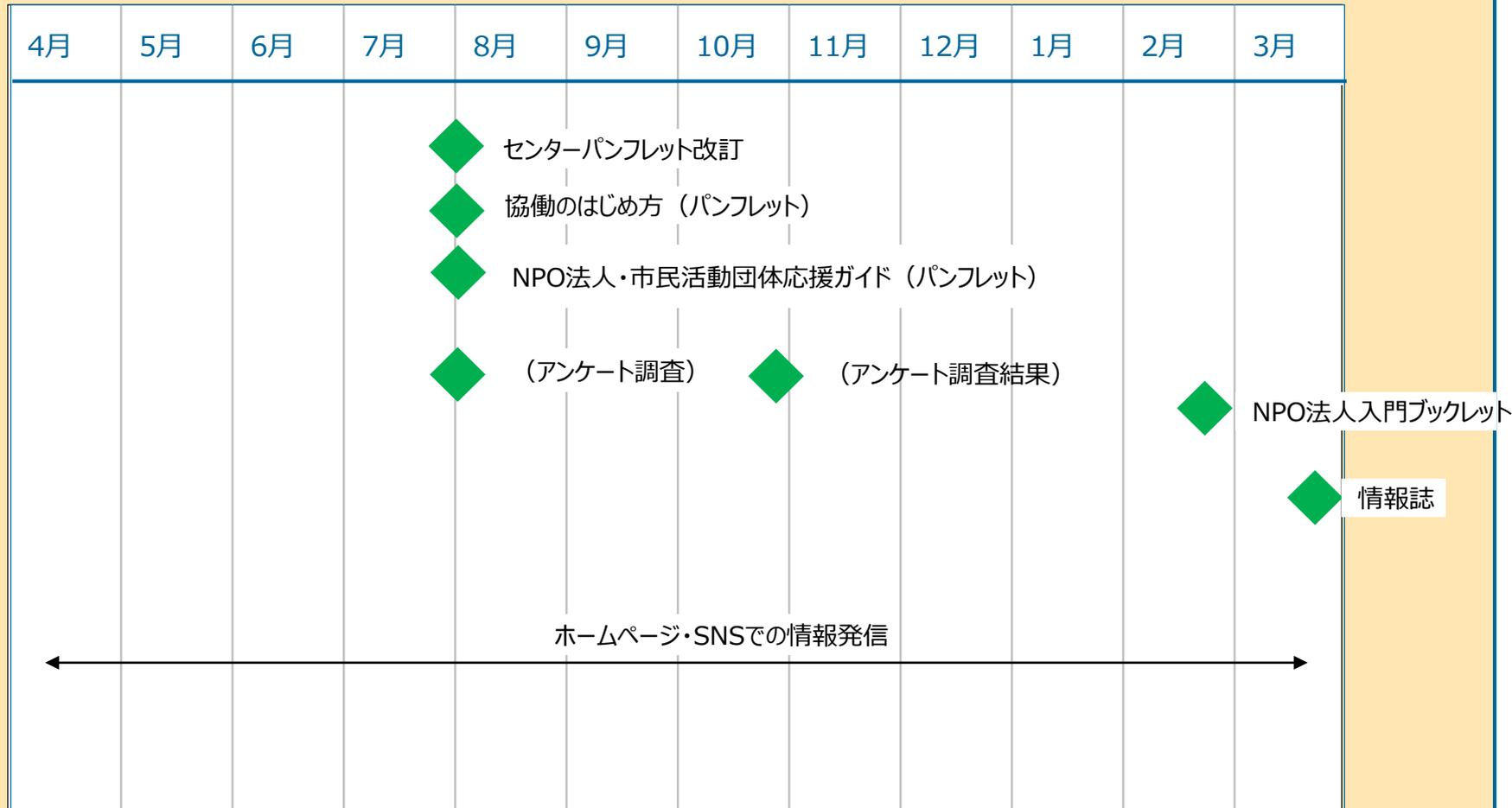
- ・パブリックアクション
- ・市民活動支援事業
- ・協働を促進する  
スペースの活用

## 各区の 市民活動支援 センター 支援事業

# 年間イベントスケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
				◆	◆							
				参加の場の開き方								
					◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
					よこはまNPO会計セミナー				対話&創造ラボ			
								◆	◆	◆	◆	
								パブリックアクション (トライアルセミナー)				
								◆	◆	◆	◆	
								ヨコハマ・ミズベサロン				
									◆	◆		
									よこはまNPO労務セミナー			

# 年間広報スケジュール



その他、各種イベント、空き家活用マッチング事業チラシ等

# 通年事業

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協働のコーディネート											
市民活動に関する相談											
協働を促進するスペースの活用											

**情報活用・  
事業手法  
創出事業**

**総合相談  
窓口事業**

- ・協働のコーディネート
- ・市民活動に関する相談

# 相談件数（4～9月中間報告）

## 357件

（4月 55件、5月 72件、6月 62件、7月 41件、8月 59件、9月 68件）

### 相談種別 上位5（件数が多い順）

- センター機能に関する問い合わせ：62件
- 法人事務：52件
- 空家マッチング：44件
- 新型コロナウイルス関連：43件
- 他団体・他機関との連携：43件

---

士業相談：	14件
活動実践者相談：	3件

# 横浜市 空家・空地活用 マッチング制度

子育て支援や子どもたちの  
居場所の取組みとして

シニア世代の活動や  
多世代交流の拠点として

## マッチング制度の3つの流れ

- ① 空家・空地の活用事業の相談・情報を登録！
- ② 条件に該当する空家・空地の情報を受け取る！
- ③ 所有者とのマッチング！

詳細は裏面をご覧ください → → →

地域の方たちが集うカフェや  
コワーキングスペースとして

福祉事業拠点としての  
障害のある人の働く場として

## 空家・空地を活用して地域に貢献する活動に取り組みたい方へ

地域貢献の活動拠点を探している団体や事業者と、  
横浜市内の空家・空地の所有者とのマッチングをコーディネートする仕組みです。

**【空家・空地を所有している方の登録も受け付けています】**

詳細は裏面をご覧ください → → →



<問い合わせ>

☎ 045-671-4732

ホームページの問い合わせフォームからも相談を受け付けています。  
右のQRコードからアクセスしてください。



本事業は、横浜市建築局住宅政策課(045-671-4121)と横浜市市民協働推進センター(管理運営団体・市民セクターよこはま・関内インノベーションイニシアティブ共同事業体)が協働で実施しています。



## → → → マッチングまでの流れ ← ← ←

本事業では、横浜市市民協働推進センターと住まいるインが、相互に情報共有し、登録された方の希望や条件が該当した場合に、横浜市市民協働推進センターが、所有者と活動団体・事業者等とのマッチング(対話の場)をコーディネートします。

### 空家・空地を地域で活用したい方 (活動団体・事業者等)

- <対象者>
- 市民で組織され、市民が自由に参加し継続的に活動している団体又はその意向を持っている方
  - 事業者
- <活動の要件>
- 自治会・町内会から理解を得られるような地域活性化に資する事業であること。
- ※上記のいずれかの対象者に該当し、非常利・公益を目的とする取組み



### 横浜市市民協働推進センターへ

☎ 045-671-4732

(平日9:00-20:00  
土日・祝日9:00-17:00)



ホームページの問い合わせフォームには  
右上のQRコードからアクセスできます。

### Step 1

電話または上記フォームでご連絡いただき、相談日をご予約ください。(その際にも、簡単にヒアリングさせていただきます。)

### Step 2

予約相談では、主に以下の内容についてお聞かせください。

- ・空家・空地を活用した事業について(事業の目的・内容、予算、期間等)
  - ・空家・空地の条件について(エリア、構造等)
- ※計画として、お考えの範囲でお聞かせください。  
※オンラインでの対応も可能です。

### Step 3

条件に該当する物件の情報があった場合、その情報をお伝えしますので、紹介(所有者との対話)の希望の有無をお聞かせください。



双方の希望を確認し、対話の場を設定します。  
日時は、横浜市市民協働推進センターが調整します。会場も当センター(横浜市庁舎1階)で行います。

### 空家・空地を活用してほしい方 (空家・空地の所有者)

- <対象者>
- 空家及び空地の所有者
- <対象建築物等>
- 横浜市内にある一戸建て住宅の空家、又はその跡地等
- ※建築物の老朽化が激しい、法令に違反しているなど、利活用に適さない場合はお断りすることがあります。



### 空家の総合案内窓口(住まいるイン)へ

☎ 045-451-7762

(平日・土日祝日 10:00-17:00)



相談窓口：  
そごう横浜店 9階市民フロア  
9月末に「住まいるイン」が移転予定です。  
詳しくは右上のQRコードからホームページをご確認ください。※移転後、営業時間が変更する場合がございます。

### Step 1

電話または窓口でご相談の際、次の内容についてお聞かせください。

- ・空家・空地の所在地、建物の構造、建築時期、管理状況等
- ・貸し出す際の条件(期間、家賃、原状回復の有無)

### Step 2

活動団体・事業者等との対話の希望がありましたら、上記で伺った空地・空家の情報を登録します。登録された空地・空家の情報は、空家の総合案内窓口(住まいるイン)から、横浜市市民協働推進センターに提供されます。

※非常利・公益を目的とした事業の実施が前提となりますので、条件はご相談させていただく場合があります。

空家・空地の  
所有者  
向け

# 横浜市 空家・空地活用 マッチング制度

実家の親が亡くなって  
誰も住んでいない…

売却の予定はないけど  
何か地域の役に立ててほしい…

## マッチング制度の3つの流れ

- ① 活用してほしい空家・空地の相談・情報を登録！
- ② 条件に該当する活動団体の情報を受け取る！
- ③ 希望する活動団体とのマッチング！

詳細は裏面をご覧ください → → →

家が古いから  
借り手が中々見つからない…

地域に貢献する団体に  
使ってもらいたい！

地域貢献の活動拠点を探している団体や事業者と、  
横浜市内の空家・空地の所有者とのマッチングをコーディネートする仕組みです。

**【空家・空地を所有している方の登録を受け付け中】**

詳細は裏面をご覧ください → → →

<問い合わせ> 空家の総合案内窓口(住まいるイン)

☎ 045-451-7762



詳しくは、右のQRコードからホームページをご確認ください。

本事業は、横浜市建築局住宅政策課(045-671-4121)、住まいるイン(横浜市住宅供給公社)、横浜市市民協働推進センター(管理運営団体:市民セクターよこはま・関内インベーションイニシアティブ共同事業体)が協働で実施しています。



## → → → マッチングまでの流れ ← ← ←

本事業では、住まいるインと横浜市市民協働推進センターが、相互で情報共有し、登録された方の希望や条件が該当した場合に、横浜市市民協働推進センターが、所有者と活動団体・事業者等とのマッチング(対話の場)をコーディネートします。

### 空家・空地を活用してほしい方 (空家・空地の所有者)

<対象者>

空家及び空地の所有者

<対象建築物等>

横浜市内にある一戸建て住宅の空家、又はその跡地等

※建築物の老朽化が激しい、法令に違反しているなど、利活用に適さない場合はお断りすることがあります。



空家の総合案内窓口(住まいるイン)へ

☎ 045-451-7762

(10:00-17:00  
土日、祝日、年末年始を除く)



相談窓口:  
ヨコハマポートサイドビル4階

詳しくは、右上のQRコードからホームページをご確認ください。

### Step 1

電話または窓口でご相談の際、次の内容についてお聞かせください。

- ・空家・空地の所在地、建物の構造、建築時期、管理状況等
- ・貸し出す際の条件(期間、家賃、原状回復の有無)

### Step 2

活動団体・事業者等との対話の希望がありましたら、上記で伺った空地・空家の情報を登録します。登録された空地・空家の情報は、空家の総合案内窓口(住まいるイン)から、横浜市市民協働推進センターに提供されます。

※非営利・公益を目的とした事業の実施が前提となりますので、条件はご相談させていただく場合があります。

### 空家・空地を地域で活用したい方 (活動団体・事業者等)

<対象者>

- 市民で組織され、市民が自由に参加し継続的に活動している団体又はその意向を持っている方
- 事業者

<活動の要件>

自治会・町内会から理解を得られるような地域活性化に資する事業であること。

※上記のいずれかの対象者に該当し、非営利・公益を目的とする取組み



横浜市市民協働推進センターへ

☎ 045-671-4732

(平日9:00-20:00  
土日・祝日9:00-17:00)



ホームページの問い合わせフォームには右上のQRコードからアクセスできます。

### Step 1

電話または上記フォームでご連絡いただき、相談日をご予約ください。(その際にも、簡単にヒアリングさせていただきます。)

### Step 2

予約相談では、主に以下の内容についてお聞かせください。

- ・空家・空地を活用した事業について(事業の目的・内容、予算、期間等)
- ・空家・空地の条件について(エリア、構造等) ※計画として、お考えの範囲でお聞きします。 ※オンラインでの対応も可能です。

### Step 3

条件に該当する物件の情報があった場合、その情報をお伝えしますので、紹介(所有者との対話)の希望の有無をお聞かせください。



双方の希望を確認し、対話の場を設定します。  
日時は、横浜市市民協働推進センターが調整します。会場も当センター(横浜市庁舎1階)で行います。

# 協働推進センターパンフレット改訂（外）

## ご利用ルール・施設詳細

「協働ラボ・スペース AB」の利用は、団体登録が必要となり、登録された団体の目的の範囲でご利用が可能です。団体登録は、(1)「非営利性」(2)「自主性」(3)「公益性」(4)「属地域性」の4つの要件を全て満たしていることが基準となります。

※上記、団体登録の4つの要件を満たし、複数の主体により取り組まれている協働プロジェクトについては、プロジェクトチーム（団体）として登録いただけます。（民間同士の協働プロジェクトも含みます。）

### 登録手順



団体登録はこちらから

	協働ラボ	スペース AB
主な機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合相談窓口</li> <li>NPO 法人の各種申請・届出、事前相談窓口、書類の閲覧・閲覧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打ち合わせ利用 ※協働プロジェクトに関する2階以上での打ち合わせに限りです</li> <li>催し（セミナーやイベント等）の利用 ※貸切でご利用いただけます</li> </ul>
ご利用できる人	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動団体・NPO 法人・企業（個人・行政・大学など、どなたでもご利用できます</li> <li>プロジェクト登録団体 ※協働に取り組んでいる複数主体は「プロジェクト」単位で利用数額が異なります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市からの共催・後援協力を得て協働事業を行う方</li> <li>プロジェクト登録団体・登録団体</li> </ul>
予約について	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合相談窓口のご利用は、原則として予約制です。HP の問い合わせフォームにご相談の詳細をご記入ください。</li> <li>利用日2ヶ月前から、電話で受け付けます。（10名程度） ※予約をオススメします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市の協働先担当から予約が必要です。詳しくは、協働先担当へご相談ください。（当日は協働先担当の同意が必要です）</li> <li>利用日3週間前まで、電話で受け付けます。（18名まで） ※予約をオススメします。予約状況は、HP の「スペース AB」について」からご確認ください</li> </ul>
設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>閲覧用 PC ※作業はできません</li> <li>テーブル、ホワイトボード、無線 Wi-Fi</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーブル、ホワイトボード、パソコン、ヘッドフォン、有線 LAN、無線 Wi-Fi、大型プロジェクター、スクリーン、マイク等の各種機材</li> <li>テーブル、ホワイトボード、無線 Wi-Fi</li> </ul>

※スペース AB の貸切のご利用については、参加料や物販等、参加者から料金を徴収する場合は会場使用料がかかることがあります。

### お問い合わせ

横浜市市民協働推進センター

〒231-0005  
神奈川県横浜市中区本町6丁目50-10  
横浜市府会1階

平日 9:00-20:00 TEL: 045-671-4732

土日祝 9:00-17:00 FAX: 045-223-2888

お問い合わせは、下記のHPよりフォームにて受け付けております。

<https://kyodo-c-city.yokohama.lg.jp/>

ACCESS みなとみらい線「馬車道駅」1C 出入口徒歩1分  
JR・京浜東北線「本町駅」徒歩3分



## 横浜市 市民協働 推進センター



協働の未来をつくろう。

横浜市市庁舎1F

～組織の「垣根」を超え、地域の課題解決に向け協働を進めるために～

<運営>

市民セクターよこはま、関内イノベーションニシアジブ共同事業体・横浜市市民協働推進課

# 協働推進センターパンフレット改訂（内）

こんにちは、  
横浜市市民協働推進センターです！

私たち、横浜市市民協働推進センターは、横浜をより良くしたい地域団体・NPO・企業・大学・市民等の方々や、行政が重なり合う空間です。組織・立場の垣根を超えて取り組みたい課題や、気になるテーマで繋がって、協働して未来をつくっていくためにお使いいただけます。

地域の課題に取り組むプロジェクトや、主体的な実践を一つ一つ積み重ねていく皆さんを応援し、コーディネートや伴走的な関わりを行うことで、横浜がもっと豊かに、暮らしやすいまちになることを目指します。

市庁舎1F、大岡川沿いにあります。



協働の未来をつくろう。

センターのしくみ | 協働することで、横浜をより暮らしやすいまちに！

どうやってプロジェクト  
を始めたいの？



目的を共有できる  
仲間と出会いたい！

ありたい姿を描く市民

取り組みたい  
テーマ・課題  
主体的な取り組み  
仲間・連携  
パートナーとの出会い

相談

実践

協働

横浜市市民協働推進センター

総合相談窓口

情報提供・アドバイス

プロジェクト伴走支援  
マッチング

暮らしやすいまち、横浜へ

協働コーディネーター紹介 | 実践を通じた協働を生み出そう！

さまざまな地域課題や協働事業に関する相談に対し、実現に向けたプロセスと一緒に考えます。



吉原 明香

横浜市市民協働推進センター  
統括責任者  
認定NPO法人市民協働センターよこはま  
理事 / 事務局長  
<https://shimin-sector.jp/>



治田 友香

国内イノベーション  
インシアティブ株式会社  
代表取締役  
<https://massmass.jp/>



藤 祐美子

認定NPO法人  
こまもふらす代表 / 理事長  
<https://comachipus.org/>



鈴木 智香子

NPO法人 南カフェ  
大倉山ビル 理事長  
<https://cafein4jmdofree.com/>

## 活用のしかた

“横浜をもっと豊かに、暮らしやすいまちへ”  
横浜市市民協働推進センターを活用する方法は大きく6つ。

### 1 相談する

- ◎ 組織づくり・これからの事業展開について相談したい！
- ◎ 他組織と関係づくりをしたい！



■ 問い合わせ・相談のお申込みは、フォームにて受け付けております。まずはお気軽にご連絡ください。

### 2 対話する

- ◎ 横浜の未来のまちづくりに向けて、ワクワクする場はないかな？



■ 「未来を予見する対話型イベント」や「様々な主体の交流・連携から新たな知を生み出すイベント」を開催しています。

### 3 学ぶ・深める

- ◎ 協働について学びたい！
- ◎ 横浜市に市民協働事業の提案をしたい！



■ 具体的にアクションを起こしたい、すでに起こしている多様な主体の学び場です。  
■ 既存の制度や仕組み、慣習を乗り越えて、新しい価値を生み出したい方を応援しています。

### 4 情報収集する

- ◎ 助成金や制度、研修、他組織の事例をキャッチして、自分たちの活動に活かしたい！
- ◎ センターの発信情報をタイムリーにゲットしたい！



■ HP・各種SNS・メールマガジンを通じて、皆さまに役立つ情報を発信しています。



### 5 知る

- ◎ NPO法人立ち上げについて学びたい！
- ◎ 会計や労務について知識を得たい！



■ NPO法人向けに会計・税務労務講座などの各種セミナーを開催しています。

■ 各種セミナーやイベント等の情報は、メールマガジンでもお知らせしています。

### 6 スペースを利用する

- ◎ 行政とともに、協働型のイベントを開催したい！
- ◎ 打ち合わせ場所を探している！



■ 「スペースAB」、「協働ラボ」を貸し出しています。詳しくは裏面をご覧ください。

# NPO法人・市民活動団体応援ガイド（外）

## 市民活動応援プログラム一覧

### A センターにじっくり相談する

1 お申込み	2 日程調整&事前ヒアリング	3 相談当日
<p>まずは問い合わせフォームより、ご相談内容をお知らせください。 (できるだけ詳しく記入してください)</p> 	<p>2~3日中に、担当者より日程調整のご連絡をします。 適任のスタッフをコーディネートするため、事前ヒアリングをさせていただきますことがあります。</p>	<p>活動メンバー複数名で来られることをおすすめします。 60~90分、じっくりお話を伺います。 いっしょに課題の再設定を行い、次のステップを確認します。</p>

なかなかなかうまくいかない...  
また困りごとができた...  
そんなときはまた連絡してください。  
また、成果のご報告も楽しみにしています。



**4 アクション!**

### B 講座に参加する

- NPO 法人会計セミナー（開催時期：ホームページでご確認ください）  
NPO 法人の会計基準に基づいて、日常的な会計処理から決算書類の作成までの過程に必要な知識やスキルの習得を目指します。  
対象：NPO 法人の会計担当者、会計の管理者
- NPO 法人労務セミナー（開催時期：ホームページでご確認ください）  
職員を雇用するにあたって必要な労務や人事、組織運営に必要な知識や情報、実践方法を、講義と事例を通じて学びます。  
対象：NPO 法人の労務担当者、労務・人事の管理者

### C 専門家に相談する

- 士業相談（通年・一部団体負担あり）  
団体の運営や活動を進めるうえで、専門的なアドバイスが必要な内容について、士業の専門家への相談をコーディネートします。(コーディネート対象：税理士・社会保険労務士・弁護士・建築士)

### D 活動実践者に相談する

あゆむの  
市民活動支援センターに相談する

各区の市民活動支援センターでは、身近な地域における市民活動を支援するため、地域に密着した支援を行っています。  
▶ [横浜市 各区の市民活動支援センター]「〇〇区 市民活動支援センター」で検索してください。

【対象】横浜市内で活動している NPO 法人、市民活動団体等（その他の団体はご相談ください。）

横浜市  
市民協働  
推進センター



## NPO法人・市民活動団体 応援ガイド



ビジョンに近づくには  
今、何をしたら  
いいのだろうか？



変化に対応できる  
組織に進化して  
いくには？



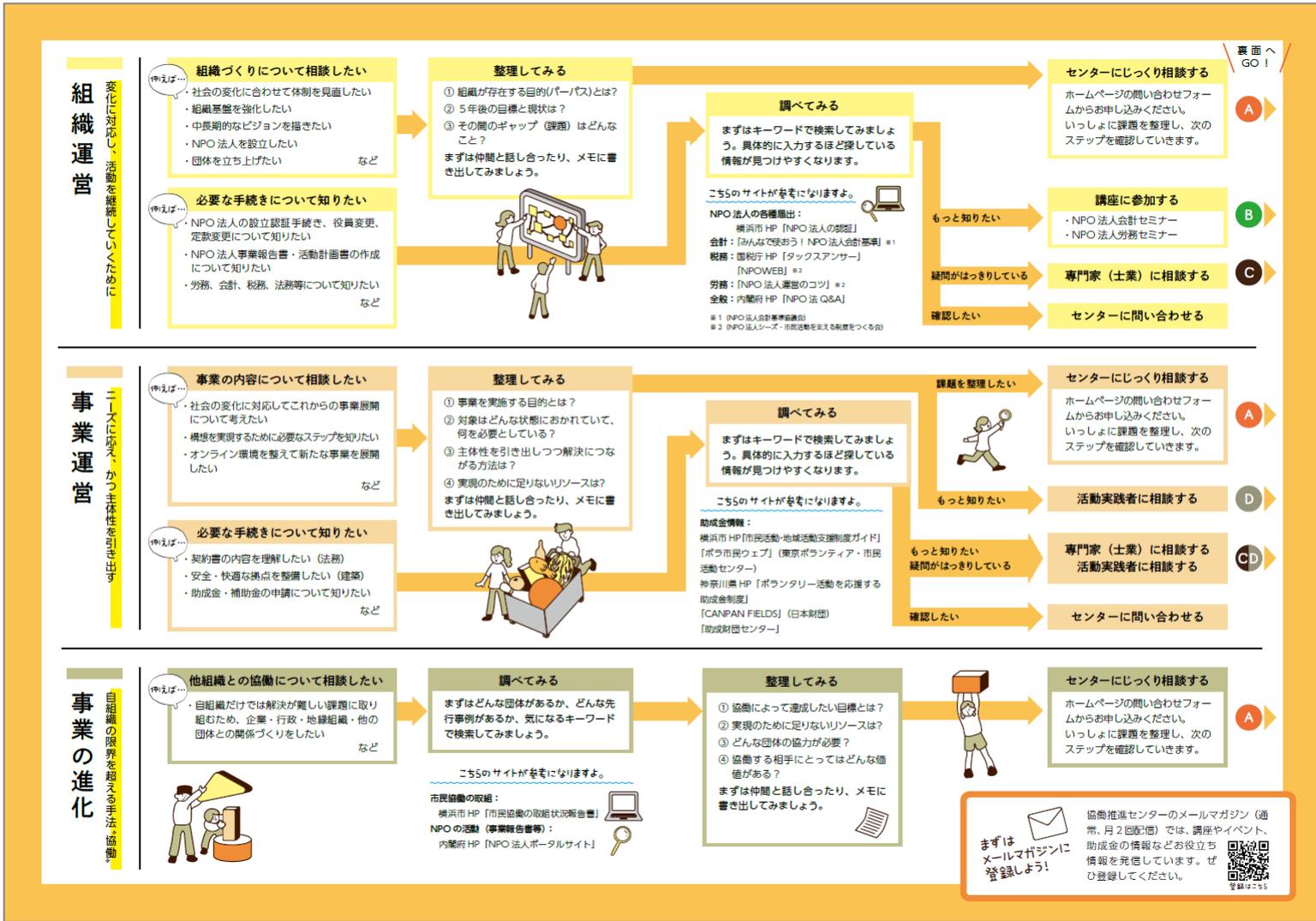
社会ニーズの変化を  
とらえて事業を  
展開していくには？

課題解決に向けて、いっしょに考えます! /

< 運営 >

市民セクターよこはま、関内イノベーションイニシアティブ共同事業体、横浜市民局市民協働推進課

# NPO法人・市民活動団体応援ガイド（内）



# 協働のコーディネート 複数以上の主体の協働事業につながる相談 (4~9月中間報告)

## 17件

- ・複数以上の主体の協働事業に発展している・または可能性のある事案 5件【継続A】
- ・少し時間はかかりそうなものの、小さな実践などに取り組み中で、今後もフォローしていく事案 12件【継続B】

---

そのほか、2020年度からの対応継続事案 20件

# 協働のコーディネート（中間報告）①

	主体	テーマ
1	芸術系大学の研究グループ 重度心身障がい児・者当事者団体 行政	ピアノ演奏が感情におよぼす効果の測定 （認知症予防等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者</li> <li>・ 重度心身障がい児・者</li> </ul>
2	乳がん検診啓発の団体 株式会社 医療機関 ほか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳がん検診の啓発</li> <li>・ 治療方法の選択肢提示</li> </ul>
3	離婚家族の面会交流支援団体 子育て支援拠点 県内面接交流支援団体 ほか	離婚家族の面会交流支援
4	税理士法人 子育て支援拠点 区社会福祉協議会 キャリア教育関連団体 主任児童委員 学校法人（通信制高校） 児童養護施設等の若者支援関連団体 ほか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養護施設出身者の支援</li> <li>・ 子どもと地域なりわい企業のつながりづくり</li> <li>・ 法人事務所一部スペース地域活用</li> </ul>

# 協働のコーディネート（中間報告）②

	主体	テーマ
5	行政 協働コーディネーター	学校と学校地域コーディネーターの活用推進
6	フードバンク関連団体 移動サービス関連団体	<ul style="list-style-type: none"><li>持続可能なフードパントリーの運用</li><li>物品の搬出入の体制づくり</li></ul>
7	株式会社（宮大工関連） 行政	<ul style="list-style-type: none"><li>宮大工になりたい若者の掘り起こし</li><li>技能伝承・育成の仕組みづくり</li><li>空き家マッチング事業の活用</li></ul>
8	みなとみらい企業 環境保護関連の団体 ほか	SDGs関連の実証実験



# 協働のはじめ方スタートアップガイド（外）

= 協働のプロセスを知ろう！ =

**「協働」の道のり**

どのステップにご自身がいるのか確認しながら、「協働」にぜひチャレンジしてみてください。横浜市市民協働推進センターがみなさんを応援します！

横浜市  
市民協働  
推進センター  
*Linia*

協働の未来をつくろう。

**協働のはじめ**  
目的を共有できる仲間と出たい！

**課題と向き合う**  
自分たちだけでは解決が難しいなでも協働ってどうやって進めたらいいんだろう

**相談**  
大きな壁に当たったので相談へ

**まずは自分たちで行動する**

**参加**  
協働を学ぶセミナー等

**改善しつつ前に進もう**  
ひとまずファーストゴール！

**取組を発信**  
フィードバックは宝です！

**広げ深める**  
行政・企業・NPO等の様々な主体と出会い、広げていく

**上手く協働が進まない**  
市民協働専門の提案に挑戦する道も...

**対話**  
それぞれが持つ課題感や目指す未来について話をする

**協働パートナーと出会う**  
いよいよ協働の準備が整ってきました！

**対話へ戻る**

**協働のはじめ**

さまざまな組織・団体と協働する前にぜひご覧ください！

**KYO-DO STARTUP GUIDE YOKOHAMA**

ありたい姿を描いて、より良い社会をつくるための

**協働のはじめ方**  
スタートアップガイド

**お問い合わせ**

横浜市市民協働推進センター

〒231-0005  
神奈川県横浜市中央区本町6丁目50-10  
横浜市庁舎1階

平日 9:00-20:00 | TEL: 045-671-4732  
土日祝 9:00-17:00 | FAX: 045-223-2888

お問い合わせは、下記のHPよりフォームにて受け付けております。

<https://kyodo-c.city.yokohama.lg.jp/>

※お申し込み時「募集要項」1C 出入口情報 J8・お買地下表「根本町駅」徒歩3分

HPはこちらから

< 運営 >

市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体・横浜市市民局市民協働推進課

# 協働のはじめ方スタートアップガイド（内）



はじめに

## 「協働」とは？

私たちが考える「協働」とは、急速な社会環境の変化の中、「主体的に行動する個人や組織が、目的を共有しながらつながり、ありたい姿・社会を目指す行動」をいいます。これまで持ちえなかった新たな気づき（問題発見力）を獲得できたり、相互にエンパワメント（能力開花）を生み出します。これからの社会で必要となる仕組みやアクションが生まれる大切な体験であり、新しい価値を生むきっかけであると考えます。

= はじめよう！協働アクション =

## 「協働」をうまくすすめるポイント

市民活動団体・NPO・企業・大学・行政などそれぞれの組織ごとで、文化・使う言葉・評価軸は異なります。そんな組織同士が「協働」していくためには、心構えが必要です。私たち、横浜市市民協働推進センターが考える「協働」のポイントをお伝えします！



POINT 1

## ゆるくつながる

太い一本のつながりを持つのではなく、弱くてもゆるいつながりをいくつも持ちましょう。協働は、そんなゆるいつながりの中での「出会い」が出发点になることがあります。

セミナーや対話の場へ積極的に参加し、それぞれがどんな課題感を持ち、どんな未来を目指しているのか、話をしてみましょう。



POINT 2

## WHY/なぜ取り組むのか？

協働のプロセスでは、それぞれの組織が互いを理解し、尊重し合う関係性であることが大切です。

そのためにはまず組織内で、WHY（なぜ、私たちはこれに取り組むのか？）を改めて見つめ直し、言語化しましょう。そして、それを協働するパートナーとしっかり対話しましょう。



POINT 3

## 目的・目標の共有

協働にチャレンジする理由は多種多様です。参画する組織それぞれに目的・目標があることを認識し、それを超えた「共通の目的・目標」を見つけておくことが、長く協働していくためには大切です。最初にこれらを明確にしておくことで、協働の土壌が整います。

## 「協働」が求められる時代

改めて、なぜ今、「協働」の必要が高まっているのでしょうか？それは、一つの組織では解決できないことも、複数の組織が連携することで、課題の捉え方・アプローチの仕方が変わり、より本質的な課題解決の取組が可能となるからです。複雑に絡み合った原因を解きほぐして理解することが、より良い社会を実現していく上でとても大切です。



POINT 4

## 小さくはじめて大きく育てる

いざ協働をスタートしようとしても、「思っていたより進んでいかないな？」と感じるかもしれません。そんな時、すぐにでもできることから小さく形にすることが大切です。それぞれが持つリソースを活かして成功体験を重ねていく過程で相互理解が進み、協働していける感覚・喜びを育てていくことができます。



POINT 5

## 定期的なミーティング

協働の基盤ができれば、前に進んでいくためには定期的なミーティングが有効です。進めていく中で懸案や気づきを一ひとつ言葉にすると、違いを活かした発見があり、相乗効果生まれます。この瞬間が協働の醍醐味でもあります。



POINT 6

## 上手くいかない時こそチャンス

調整ごとの多い協働は、なかなか予定通りに進まないことも、気持ちがずれることもあります。そんな時は、諦めることなく「相手や自身のことを理解するチャンス」と捉え、まず率直に、丁寧に本当のことを伝え合います。

上手くいかないときは、新たな主体に変わってもらうなど、違うやり方がないか探してみましょう。視野や関係が広がる機会かもしれません。

こんな時、ぜひ活用ください！  
横浜市市民協働推進センター

詳しくは裏面へ

### 【市民活動団体・個人】

解決したい課題はあるが、自分たちのやり方でのいいかアドバイスが欲しい。

### 【企業】

地域で活動する方々と協力して、SDGsやCSVの視点で社会貢献していきたいが、何ができるだろう？何が求められているか知りたい。

### 【行政】

地域全体で複雑な課題が増えていて、行政だけでは解決できない。多様な主体と連携して、課題解決に取り組みたい。

目指す姿を描き、問題を再定義。多様な主体とのつながりづくりをサポートします！

# コーディネーターより半年の振り返り



## ■鈴木 智香子

重度心身障がい児・者当事者団体とのプロジェクトや、空き家マッチング制度によって、居場所の支援が具体的に始まったことが特に印象に残っています。前者は文部大臣賞を受賞されたとのことで、企業にとっての協働の価値を分かりやすく示すことも、センターの役割として必要だと思いました。

## ■治田 友香

日々の相談事業、前年度の「協働トライアルセミナー」や「対話 & 創造ラボ」などイベントを通して、活動者や関心層の幅が広がっていることを実感しています。個々の事例や最近の動向を俯瞰しつつ、協働による課題解決や価値創出に対し、このセンターがどのような役割を果たしていくのかを関係者との意見交換の機会を重ね、政策に落とし込んでいくための道筋を検討していきたいです。

# コーディネーターより半年の振り返り



## ■ 森 祐美子

学校・地域コーディネーターに対しての研修に向けて協働のポイントや市内協働先を紹介する研修を実施しましたが、更にこうした各地のコーディネーションを既に行っている皆さまとの連携が重要だと思いました。「参加の場のひらき方」の企画もそうですが、市民・団体・企業・行政、多くの方が協働価値を共有していくことや、協働がうまれやすくなるスペース利用方法の検証が今後も引き続き必要だと感じています。

## ■ 吉原 明香

- ・協働提案をいきなり行政に行くというよりも、まず民と民がつながり、できることをともに学び考えるプロセスが大事だとわかりました。
- ・その取り組みを行政に伝え、興味をもって主体的に関わってもらうことで、対等な関係にもなりやすく、お互いのニーズを汲みとり合うような対話が生まれやすくなります。
- ・上記のプロセスを丁寧に進めていくことで、本質的な共通目的・目標が持てるようになると考えます。



# 交流・ 連携事業

「対話&創造ラボ」

# 対話&創造ラボ (企画書より)

2021年対話&創造ラボ

会場：京セラCOMPASS

KICKOFF 第一回 | 基調講演 **NOSIGNER 太刀川英輔さん**

**12/3(Fri) 19:00-**

テーマ：

進化思考 × 【協働】 | **社会をアップデートするための【協働】の解像度の高め方**



横浜を拠点にさまざまな分野で活躍するNOSIGNER太刀川さんをお招きして、今年春に出版された著書「進化思考」で伝えられているメッセージ“誰もが持っている創造性を発揮するための思考法”についてご紹介をいただきながら、この時代に他者と一緒になって取り組む【協働】の前に自らすべきこと、そしていざ【協働】を進めるプロセスで意識すべきことについて、対話を通じて、【協働】の魅力について深掘りします。

登壇者構成：太刀川英輔さん × 森川正信 (横浜市市民協働推進センター) × 横浜市市民局市民協働推進課

## イベント構成・タイムスケジュール案

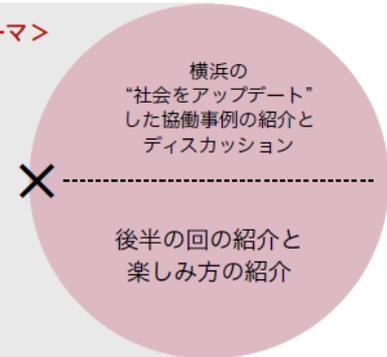
- 19:00 横浜市市民協働推進センター紹介
- 19:10 太刀川さんご紹介・対話&創造ラボの趣旨の紹介
- 19:20 太刀川さんトーク【進化思考×社会のアップデート】
- 20:00 ディスカッション開始 (マンダラトークのスタイル)
- 20:30 横浜の協働事例から紐解く、【協働】の解像度の高め方  
 > 対話&創造ラボの後半、2・3・4回で取り上げる予定の協働事例を太刀川さんとディスカッションを通じて、これからイベントに参加しようか迷っている方々に参加のモチベーションを高めたり、【協働】そのものに興味を持っていただくための時間に
- 20:45 会場またはオンラインにて質疑応答
- 21:00 終了

前半

後半

対話のトピックス例 <太刀川さんに投げかけてみたいトークテーマ>

- 「進化思考」とは何か？
- 「創造性」の科学的に構造化から見たこと
- 「変異」と「適応」から考える、組織運営・組織経営
- 社会をアップデートするための「変異（エラー）」とは？
- 「協働」とは何か？
- 社会の進化とSDGs
- 社会を進化させる人材とは
- 「協働」と「適応」
- パーバモデルと「協働」



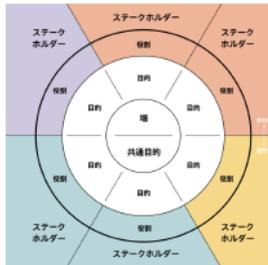
2021年対話&創造ラボ

第二回 | パーパスモデル | 吉備友理恵さん

1/21 (Fri) 19:00-

テーマ：

社会を良くする協働事例を紐解こう！社会をアップデートするためのパーパスモデル



経済性のバランスを見るものが「ビジネスモデル」、対して社会性のバランスを見るという位置付けで、関係する人が同じ方向を向けるような共有の目的を考えることが狙いとして生み出されたのが「パーパスモデル」。【協働】【共創】の解像度を高める上で複数のステークホルダーが一緒になって、共通の目的を目指しながらプロジェクトを作り、推進して行くのか？横浜の協働事例を交えつつ、パーパスモデルを学びます。

登壇者構成：吉備友理恵 × 森川正信 (横浜市市民協働推進センター) × 横浜市政策局共創推進室共創推進課

### イベント構成・タイムスケジュール案

- 19:00 チェックイン | 横浜市市民協働推進センター紹介
- 19:10 吉備さんご紹介・対話&創造ラボ・共創推進課の紹介
- 19:20 吉備さんトーク【パーパスフード・パーパスモデルとは】
  - なぜ共創・協働が必要なのか
  - 共創・協働の成果 (8つのパターン)
  - パーパスモデルが生まれたわけ
  - パーパスモデルができること
  - パーパスモデルの書き方
- 20:10 ディスカッション開始 (マンダラトークのスタイル)
- 20:35 会場、オンラインでグループになり、小ワーク・発表
  - 発表はリアルの会場の方のみに限定
- 21:00 終了

### マンダラトーク <吉備さんに投げかけてみたいトークテーマ>

- ・協働のむずかしさ
- ・共創、協働の成果
- ・現場あるある
- ・海外の共創
- ・視野の広げ方
- ・書き方指南
- ・最近の気づき
- ・おすすめ事例
- ・これから共創、協働にチャレンジする方へ
- ・面白い話 など

### 準備しておきたいもの

- ・横浜の共創、協働事例のやってみましたパーパスモデル図解 (紹介しておきたい事例：2,3事案)
- ・参加者の方々にしていただくワークアイデア

# 市民活動 団体支援 事業

- ・パブリックアクション
- ・市民活動支援事業
  - ・協働を促進する  
スペースの活用

# 協働トライアルセミナー

横浜市  
市民協働  
推進センター

協働の未来をつくろう!

## セト協 ミラ働 ナイ アル

### KYODO TRIAL SEMINAR 2022

このセミナーは、地域・社会をよくする活動・取組に関心がある方、具体的なアイデアをお持ちの方、協働の手法に関心がある方を対象としています。行政との対話のあり方、事業計画の作り方に触れ、実際の活動に生かしていただくことを目的とします。  
各回参加も可能ですが、全回通して参加ください。最終回で事業計画を発表し、具体的な一歩を踏み出すチャレンジをお勧めするものです。

**CONCEPT** コンセプト

- 個人・団体の課題認識や未来志向の考えを大事にしながら、公共性・公益性などのパブリックな視点で地域や社会を捉えられる。
- 多様な主体やセクターワイドな関係性を築くことによって、課題解決や新たな事業創出につながるイメージができる。
- 市民協働事業の提案にチャレンジする人を増やし、協働プロジェクトが市内全域で創出される。

※市民協働事業の提案支援について <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurasai/kyodo-manabi/shirinkyodo/kyodo/shirinkyodoetainn.html>

**2021年12月～2022年2月まで〈全5回〉** 各回18:30～20:45  
開場18:00～

**場 所** 横浜市市民協働推進センター（オンライン配信）

**対 象** 市民協働や民間同士の協働の取組に意欲・関心がある市民／企業／行政職員

**内 容** 協働の取組に必要な知識や考え方を理解するとともに、協働のスキルの向上を図り、将来的に協働事業の立案を目指すセミナー

**定 員** 50名/全回参加を優先します/各回参加もOK ※初回は公開セミナーですのでお気軽にご参加ください（初回・定員80名）

**ENTRY** お申込方法

横浜市市民協働推進センター申し込みフォームから手続きしてください。  
<https://kyodo-c.city.yokohama.lg.jp/>

主 催：横浜市市民協働推進センター（共同事業体：市民センターよこはま、開内イノベーションイニシアティブ）、横浜市市民協働推進センター

## 対象

市民協働や民間同士の協働の取組に意欲・関心がある市民／企業／行政職員

## コンセプト

- 個人・団体の課題認識や未来志向の考えを大事にしながら、公共性・公益性などのパブリックな視点で地域や社会を捉えられる。
- 多様な主体やセクターワイドな関係性を築くことによって、課題解決や新たな事業創出につながるイメージができる。
- 市民協働提案事業にチャレンジする人を増やし、協働プロジェクトが市内全域で創出される。

## 内容

- 第1回 身近な市民協働
- 第2回 協働のイロハを学ぼう！
- 第3回 自治体とNPOの共創・協働をすすめる仕組み
- 第4回 市民協働のプロセスを読み解く
- 第5回 受講生による市民協働事業プラン発表会

# 「ポストコロナの参加の場の開き方」

# オンライン開催 申込者：45人

横浜市市民協働推進センター 市民活動支援事業

8/28(土)  
9/9(木)

ポストコロナの  
**参加の場の開き方**  
～困っている時こそ、「自分」から始めるストーリー～

この1年、ずっと走り続けているNPO・団体の皆さんへ  
答えのない日々の活動の中で、様々な葛藤の中「これでいいのだろうか」と  
思いながら、今までの事業を続けるべきか、新しいことに挑戦すべきか…等、  
自分たちで決断しなくてはならないことが増えていると思います。  
「以前来てくれていた利用者さん、“あの人”の顔を見なくなった。」  
「席数を減らして運営しているので、以前と同じ収入は得られない…」  
そんな悩みを団体内のみで抱えていませんか？  
今回は、コミュニティデザイン実践家である坂倉杏介先生の講義後、  
団体の皆さん同士の対話の時間を設けます。団体内のみでは解決の難しい  
「課題」を話し他団体と共有することで、ファシリテーターと共に  
「市民の参加」をリ・デザイン（再構築）するきっかけとします。



講師  
坂倉杏介先生

**開催概要**

- 開催日： 第1回 2021年8月28日(土) 15:00～17:30  
第2回 2021年9月9日(木) 10:00～12:30  
※第2回は、第1回に行った坂倉先生の講演・対談部分は録画視聴となります。  
いずれかご都合の良い日程でご参加ください。
- 会場： web会議システムzoom
- 対象： 継続した“参加の場”を運営している市民活動団体の方
- 定員： 先着25名/回 (各団体3名まで)
- 参加費： 無料
- 内容： 15:00(10:00) 開会・参加者の皆さんより一言タイム  
15:15(10:15) 講演「一人ひとりの困りごとを集める、ありたい未来を描く、そして…」  
坂倉杏介先生(東京都市大学 准教授)  
15:55(10:55) 対談(インタビュー&トークセッション)  
坂倉杏介先生×協働コーディネーター・ファシリテーター  
16:15(11:15) 休憩  
16:25(11:25) ワークショップ  
進行役：協働コーディネーター・ファシリテーター  
17:00(12:00) 全体交流タイム  
17:30(12:30) 閉会 裏面あり

<運営> 市民セクターよこはま・国内イノベーションイニシアティブ共同事業体・横浜市市民協働推進課

## 対象

継続した“場”を運営している市民活動団体の方

## 目的

コロナ禍で市民の地域や社会への参加の機会に影響が及ぼされている中、これからの「参加」の在り方について考える機会とする

## 内容

講演「一人ひとりの困りごとを集める、ありたい未来を描く、そして…」坂倉杏介先生(東京都市大学 准教授)

対談(インタビュー&トークセッション)

ワークショップ

全体交流タイム

## 参加者の声

コロナ禍で「正解はない」と分かっているけど悩んでいる参加者が多く、「こんな時だからこそできることがある」「繋がりには生きるために必要」「そもそもこの場所が何のためにあるのか、というところに立ち戻れた」「録画配信でも伝わった」という感想が多く寄せられた。

# 「よこはまNPO会計セミナー」 ハイブリッド開催 申込者：31人

複式簿記による決算作成までの手順と  
具体的な会計業務が学べる超実践編！

## よこはまNPO 会計セミナー

～会計初学者向け～  
4回連続講座（個別受講不可）



9/21 (火) 10/5 (火) 10/21 (木) 11/5 (金) 各回14:00-17:00

- 会場：横浜市市民協働推進センター スペースAB（横浜市庁舎1階 / 裏面の地図参照）
- 参加費：6,000円（4回分 / 事前振込） ● 定員（先着順）：会場参加25名・オンライン参加 20 名

### 対 象

横浜市内で活動しているNPO法人の会計担当者、会計管理に携わる役職員



- ☑ 設立0～2年のNPO法人で、会計業務や体制の基礎を固めたい方
- ☑ NPO法人で、新たに会計業務を担当することになった方
- ☑ 会計ソフトを用いて業務を行うために、簿記を学びたい方
- ☑ 役員や事務局長など、会計管理に携わる立場として学んでおきたい方

### プログラム

第1～3回では、NPO法人会計基準に基づき、複式簿記で会計業務を進めることを目指して、簿記3級程度の知識やスキルを講義と演習を通じて身につけます。

第4回では、日常的に生じる会計業務について、実践例を交えながら学び、自団体に適した会計業務の進め方について考えていきます。

<各回テーマ>

- 第1回 「NPO法人会計と簿記の基礎を学ぼう」
- 第2回 「簿記の流れを身につけよう～仕訳から転記・締切へ～」
- 第3回 「決算作成に向けた手続きを覚えよう」
- 第4回 「NPO法人の日常的な会計業務について」



メイン講師  
石原 直明  
税理士



サポート講師  
宮崎 敦史  
税理士

<NPO法人税理士による公益活動サポートセンター所属>

オンライン  
受講可能！  
詳しい内容  
申込方法は  
裏面へ➡

<主 催> 横浜市市民協働推進センター  
（管理運営：市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体／横浜市市民協働推進課）  
<協 力> NPO法人税理士による公益活動サポートセンター

### 対象

横浜市内で活動しているNPO法人の会計担当者、会計管理に携わる役職員

### 目的

会計・税務の実務にあたり必要な知識や方法・考え方を講義や事例から学ぶ

### 内容

- 第1回 「NPO法人会計と簿記の基礎を学ぼう」
- 第2回 「簿記の流れを身につけよう～仕訳から転記・締切へ～」
- 第3回 「決算作成に向けた手続きを覚えよう」
- 第4回 「NPO法人の日常的な会計業務について」

### 参加者の声

「簿記の基礎を学び一歩踏み込んで仕事をする事ができるようになった」「他の団体の経理担当者の方のお話が聞けたり、税理士の方に説明していただける機会はこのセミナーでしかないとても勉強になった」という声が聞かれました。

# よこはまNPO労務セミナー

これから職員を雇用する法人の方や  
労務管理をさらに学びたい方へ

## よこはまNPO 労務セミナー



労務管理の基礎編	労務管理の実践編
2022年 1/20 (木)	2022年 2/1 (火)
14:00-17:00	13:30-17:00

- 会場：横浜市市民協働推進センター スペースAB（横浜市庁舎1階 / 裏面の地図参照）
- 参加費：各回 1,500円（事前振込） ● 定員（先着順）：各回 会場参加20名・オンライン参加 20名

**対象** 横浜市内で活動しているNPO法人の労務担当者、労務管理に携わる役職員

こんな方におススメ

- 職員を雇用しているNPO法人で、初めて労務管理を担当する方
- 法人の役員や事務局長など、労務管理に関わる立場として学んでおきたい方
- コロナ禍の対応を含む、今日の動向を踏まえた労務管理のポイントを学んでおきたい方

**プログラム**  
(個別受講可)

【労務管理の基礎編】では、労務管理に初めて携わる方を主な対象として、労務管理の基礎知識について講義で学びます。さらに【労務管理の実践編】では、NPO法人としての活動が展開する中で必要となる労務管理の知識やポイント、具体的実践を、講義と事例発表を通じて学びます。

**講師**  
(第1・2回)

飯田 剛史 氏（社会保険労務士法人ここのは代表・社会保険労務士）  
NPO法人、中小企業、上場企業など、業界・業種・企業規模を問わず、労務相談及び労務トラブル解決支援を展開。その他、労働・社会保険手続き及び給与計算等のアウトソーシング活用、人事労務制度・賃金制度・就業規則整備の構築支援などを行う。



**事例発表団体**  
(第2回)

NPO法人ちょこっといずみ  
発表 理事長：泉 直子 氏 労務担当：福岡 浩子 氏  
泉区役所内で子育て支援スペース「ちょこっといずみ」の運営を行う任意団体を経て、2008年2月法人設立。2009年度より、横浜市・泉区と協働で「泉区地域子育て支援拠点すまっぷ」を運営し、妊娠中の方、未就学児のお子さんを育てている方、地域で子育てを応援している方に向けて各種事業に取り組んでいます。



オンライン受講可能！ 詳しい内容申込方法は裏面へ

### 対象

横浜市内で活動しているNPO法人の労務担当者、労務管理に携わる役職員

### 目的

労務管理の実務にあたり必要な知識や方法・考え方を講義や事例から学ぶ

### 内容

第1回：  
講義「まずはここから！NPO法人の労務管理の基礎」  
講師：飯田 剛史 氏

第2回：  
講義・事例発表「NPO法人に求められる労務管理のポイントと具体的実践」  
講師：飯田 剛史 氏  
事例発表団体：NPO法人ちょこっといずみ

# ヨコハマ・ミズベサロン

## ヨコハマ ミズベサロン

横浜市  
市民協働  
推進センター



参加費無料    定員10名

会場：横浜市市民協働推進センター  
協働ラボ

**VOL. 1**  
12/10(金)  
13:30

**VOL. 2**  
1/20(木)  
①10:30  
②18:30

**VOL. 3**  
2/10(木)  
13:30

当センターは横浜市庁舎1F大岡川のほとりにあります

交流の中からこれからの活動のヒントを見つけよう！

～ゆるく語りあいたい方、協働に関心のある方へ～

ミズベサロンとは...

2020年6月にオープンした「横浜市市民協働推進センター」の活用方法は、訪れる方により様々です。“ここでは何ができるの？”“NPO法人を立ち上げるにはどうしたら良いか”“こんなことをしているけれど、団体や企業を紹介してほしい”といった相談が多く寄せられています。その中から今回3つのテーマを設けて、ゆるくお話をしながら様々な所属の方とも知り合うきっかけとなるよう「ミズベサロン」を企画しました。



**横浜市市民協働推進センター**

管理運営団体：市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体    横浜市市民局市民協働推進課

## 対象

各回のテーマ・内容に関心の持った、地域や社会の活動に取り組もうとしている個人・活動団体・企業・行政関係者等

## 目的

- ・センター機能を知り、必要となったときに繋がれる状態にする
- ・他団体との対話・情報交換を通してゆるいつながりを得られる機会とする

## 内容

- Vol. 1 団体のミッション・ビジョンを語りあおう・聞きあおう！
- Vol. 2 “協働”ってどんなふうになるんだろう？！
- Vol. 3 NPO法人立ち上げに興味のある方集合！

# 協働を促進するスペースの活用 (4~9月中間報告)

## 利用者数

協働ラボ	1,733人
スペースA・B	1,751人

**新規団体登録** 20件 (累計113件)

神奈川県 of 緊急事態宣言発令中 (8/2 (月) ~9/30 (木) ) は  
新規の利用・予約を停止



**各区の  
市民活動支援  
センター  
支援事業**

# 各区の市民活動支援センター支援事業

## ネットワーク会議の開催

第1回： 6月11日（金） 36名

第2回： 11月10日（水） 44名

## 各区支援センター相談対応

Zoom会議開催伴走支援（2区）

**【報告】**  
**「ポストコロナにおける活動に向けた  
NPO法人・市民活動団体  
アンケート調査」  
中間とりまとめ**

# ポストコロナにおける活動に向けた NPO 法人・市民活動団体アンケート調査

## <実施主体>

横浜市市民協働推進センター(管理運営団体:市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体)  
横浜市市民局市民協働推進課

## <趣旨>

### これからの市民活動を後押しする方策を検討するためのアンケートです

「少子高齢社会」「地球温暖化」「格差の広がり」など、大きな社会問題を抱え、一方で、SDGsの推進をはじめ、未来への変革を後押しする潮流も見えてきた中で、わたしたちは、ある種の災害ともいえるコロナ禍を経験しました。

いまだ収束が見えない中、市民活動の運営や活動においては、様々な対応や変化、新たな取組に向けた模索が見られます。

このような状況下で、これからの活動の展開に寄与できるよう、団体による活動の実態や意向等を把握し、必要な仕組みづくりや支援等について、検討していくことを目的としています。

趣旨ご理解の上、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

## <調査期間>

2021年8月2日(月)～8月22日(日)(21日間)

## <調査対象>

- ・ 横浜市内のNPO法人(横浜市認証および横浜市に主たる事務所を置く神奈川県認証のNPO法人)
- ・ 2020年度市民公益活動緊急支援助成金 申請団体
- ・ 横浜市市民協働推進センター登録団体(2021年6月末時点)

## <調査結果の公開>

回答結果は、個々の団体・個人が特定されない形で集計し、報告書を作成のうえ、横浜市市民協働推進センターホームページ等で公開します。

### <本件に関するお問合せなど連絡先>

横浜市市民協働推進センター(担当:関尾・染谷・佐藤)  
電話 : 045-671-4732  
メール : information@kyodo-c.city.yokohama.lg.jp  
FAX : 045-223-2888

## <回答方法>

- 1 団体につき、回答は1回のみとさせていただきます。  
(団体内で調整のうえ、ご回答をお願いいたします。)

- 入力フォームから回答いただけます。

横浜市市民協働推進センターのホームページにアクセスいただき、「NEWS(ニュース)」のページから、アンケート専用ページにお進みください。

### 【方法1】

- ① 横浜市市民協働推進センターのホームページにアクセスください。

横浜市市民協働推進センター

検索

- ② トップページを下方にスクロールして、NEWS(ニュース)のコーナーにあるアンケート専用ページのバナーをクリックしてください。

### 【方法2】

下記の URL を入力のうえ、アンケート専用ページに直接アクセスください。

<https://forms.office.com/r/yRqSe0aJUb>

### 【方法3】

スマートフォンでの入力を希望する方は、右のQRコードからアクセスできます。



- 入力フォームでの回答が難しい場合、別方法での回答について、下記の連絡先までご相談ください。

<連絡先(担当:関尾・染谷・佐藤)>

電話:045-671-4732

メール:information@kyodo-c.city.yokohama.lg.jp

FAX 番号:045-223-2888

※ 右のQRコードから、協働推進センターの問い合わせフォームをご利用できます。



# 調査概要

## <調査期間>

2021年8月2日（月）～9月1日（水）（31日間）

※当初8月22日（日）としていたが、回答締切日を9月1日に延長

## <調査方法>

Microsoft formsを利用したweb回答方式

※web回答ができない団体からは質問紙で回答を回収

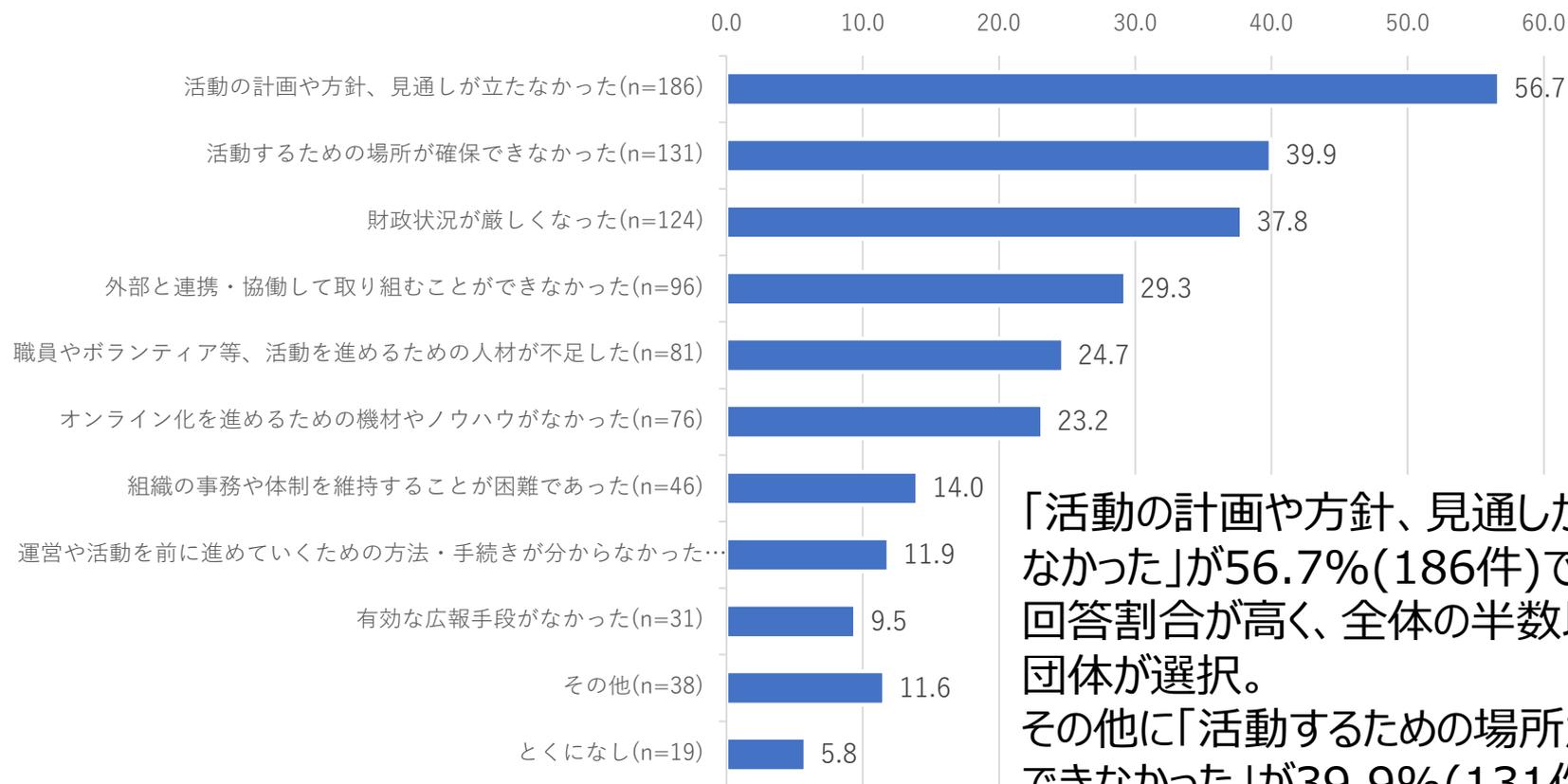
## <調査対象>

- 横浜市内のNPO法人（横浜市認証および横浜市に主たる事務所を置く神奈川県認証のNPO法人）
- 2020年度市民公益活動緊急支援助成金 申請団体
- 横浜市市民協働推進センター登録団体（2021年6月末時点）  
上記団体に対して、ダイレクトメールで調査概要資料を送付。そのほか、ホームページやSNSでの投稿、公開ホームページの代表メールアドレスまたはフォームからの個別通知を実施。

## <回答件数>

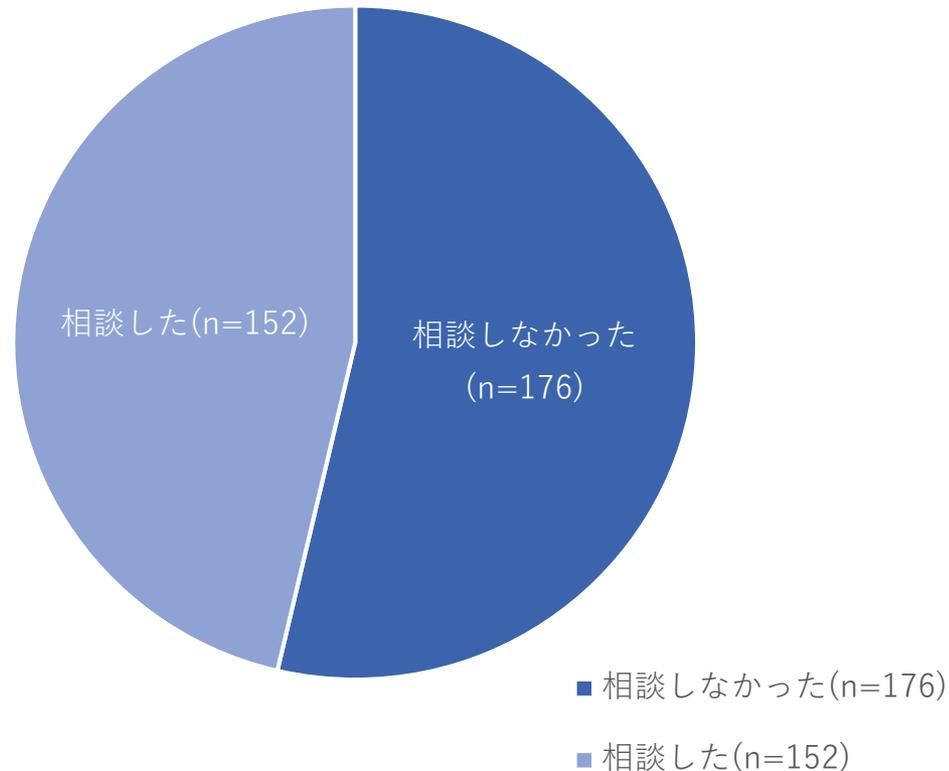
回答件数 328団体

# Q7.コロナ禍の影響によって、昨年度前半、自団体においてどのような困難や課題が生じたか。当てはまるものを全て選んでください。



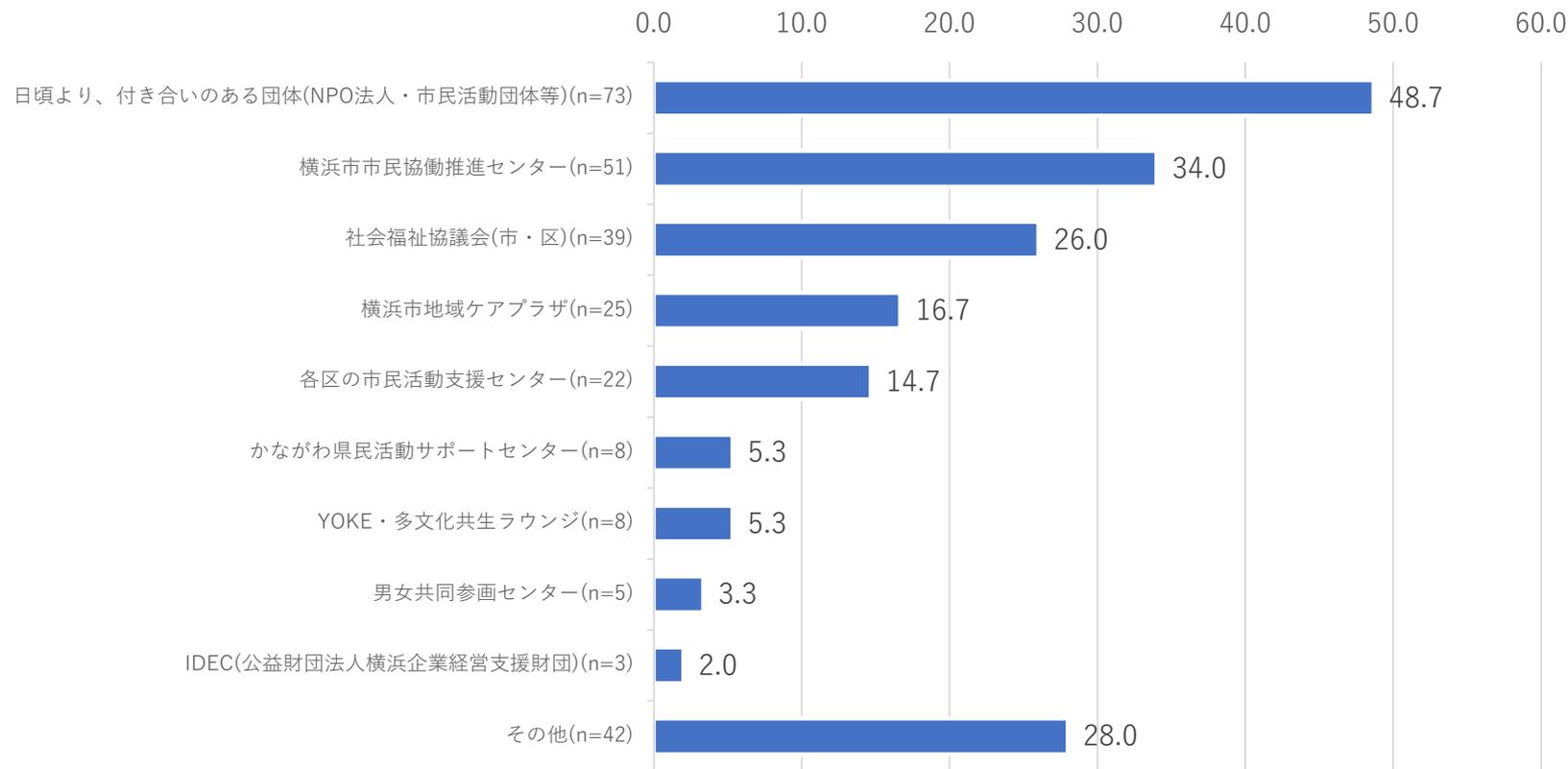
「活動の計画や方針、見通しが立たなかった」が56.7%(186件)で最も回答割合が高く、全体の半数以上の団体が選択。その他に「活動するための場所が確保できなかった」が39.9%(131件)、「財政状況が厳しくなった」が37.8%(124件)と続く。

Q8. コロナ禍で困難や課題が生じたときに、  
いずれかの団体や機関に相談しましたか。 (n=328)



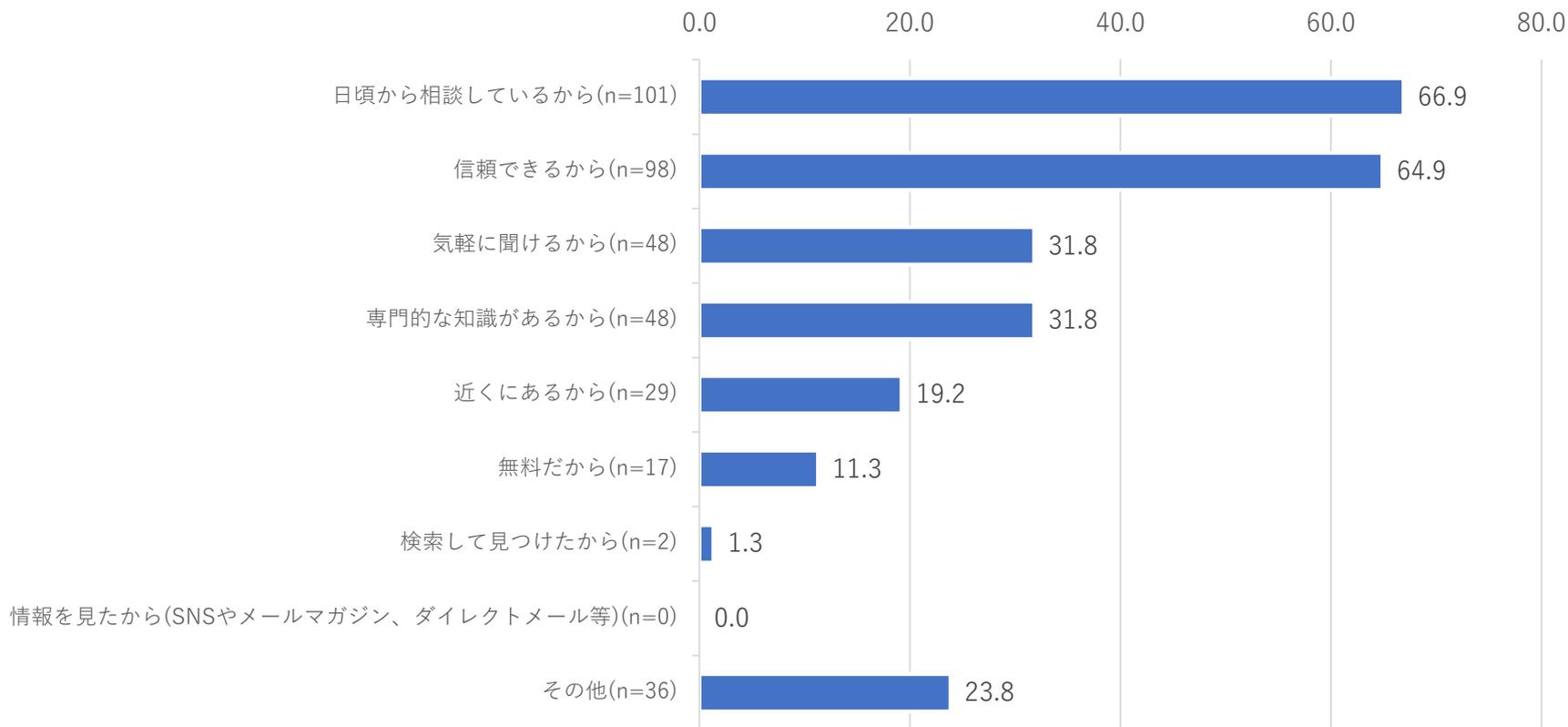
「相談しなかった」が53.7%(176件)で、  
「相談した」と回答した46.3%(152件)を上回っている。

# Q9.コロナ禍で相談した団体・機関として、 当てはまるものを全て選んでください。



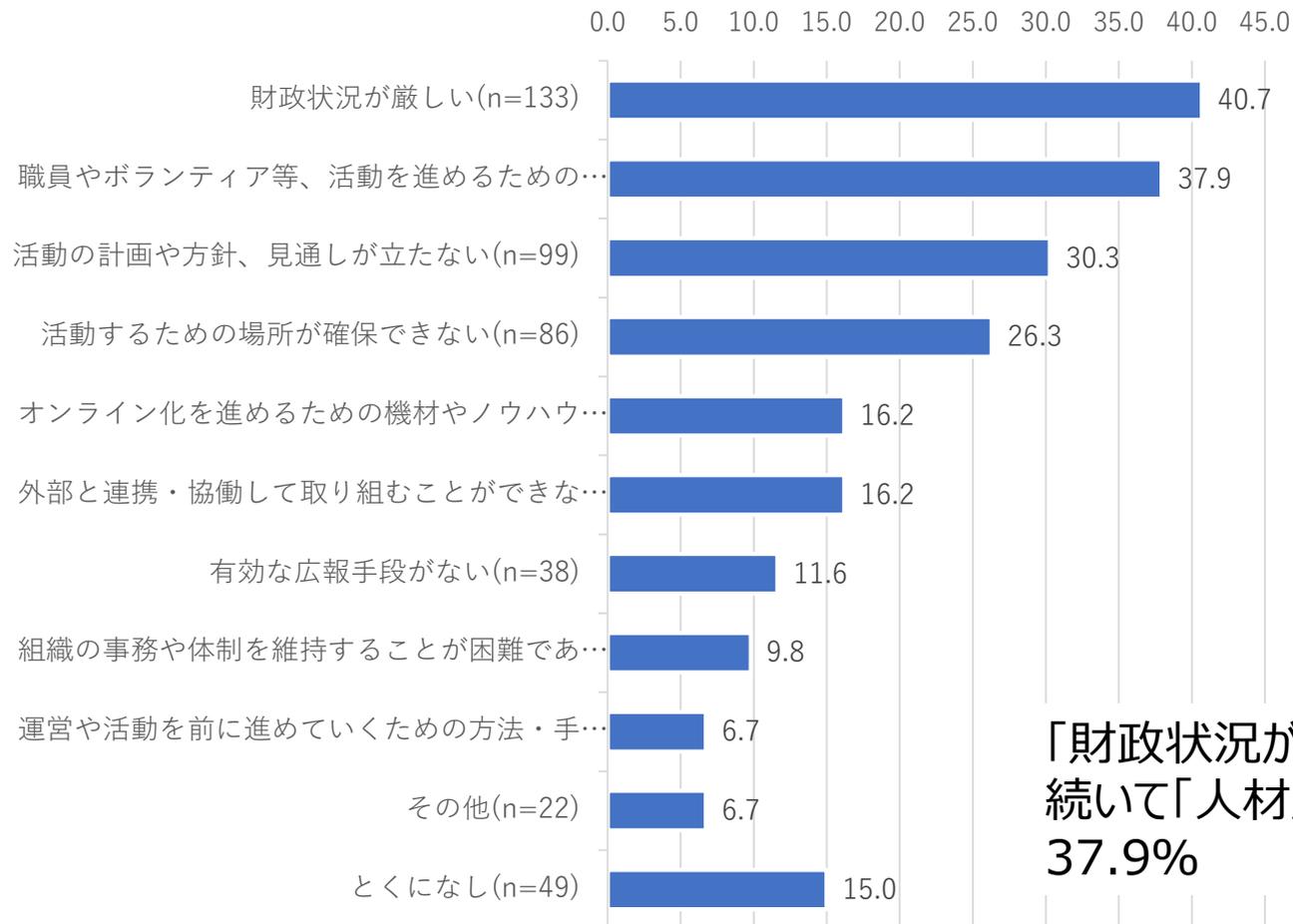
「相談した」と回答した団体（152件）のうち、約半数（48.7%・73件）が「日頃より、付き合いのある団体(NPO法人・市民活動団体等)」に相談している。次いで、「横浜市市民協働推進センター」が34.0%(51件)。

# Q10.相談先を選んだ理由として、 当てはまるものを3つまで選んでください。



「日頃から相談しているから (66.9%・101件)」「信頼できるから (64.9%・98件)」が6割を超え、次いで「気軽に聞けるから」「専門的な知識があるから」が31.8%(48件)

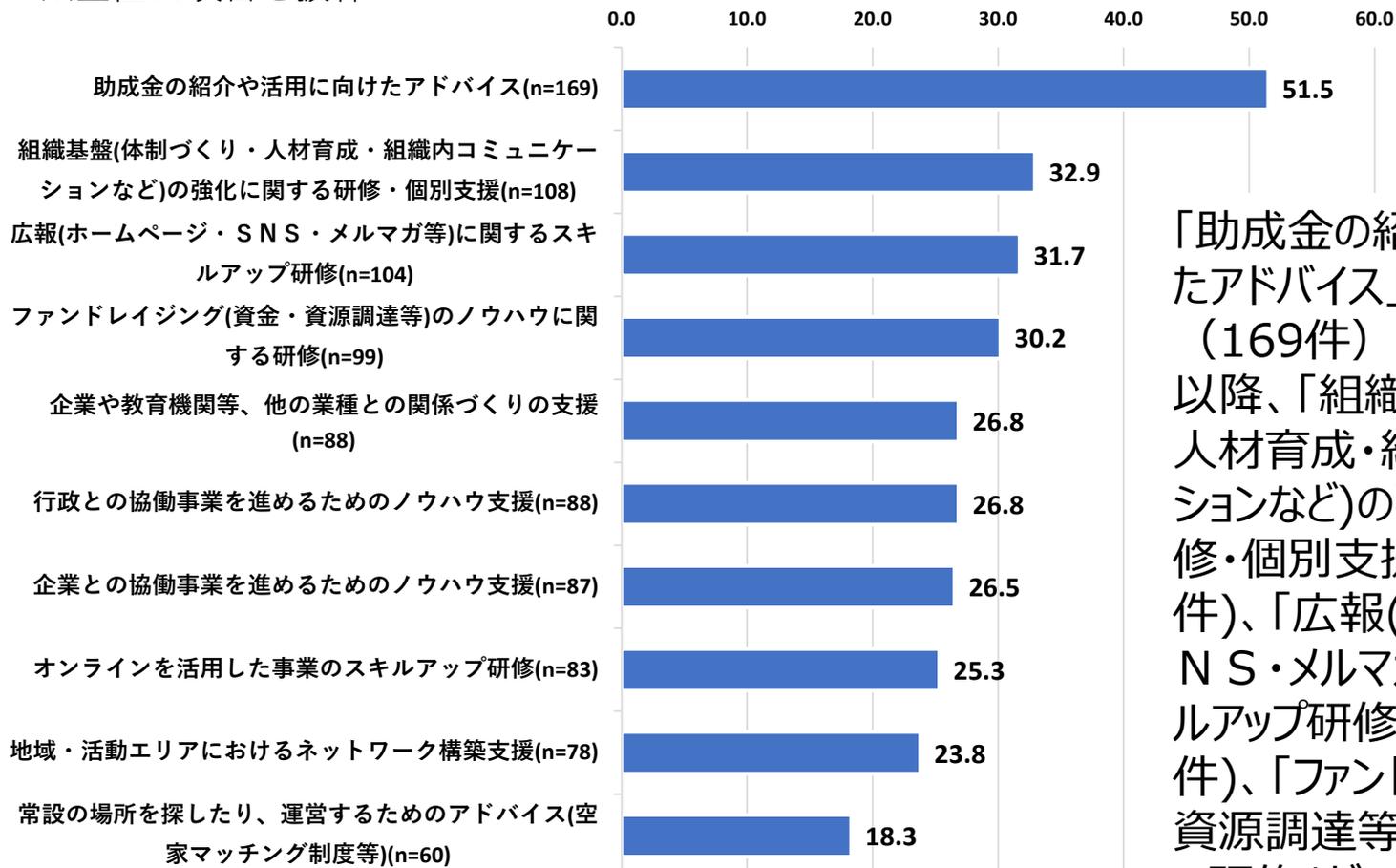
# Q17.コロナ禍の影響で、自団体において、未だに乗り越えられていない困難や課題として、当てはまるものを全て選んでください。



「財政状況が厳しい」が40.7%、  
続いて「人材が不足している」が  
37.9%

# Q18. 今後、自団体にとって必要な支援策として、当てはまるものを5つまで選んでください。

※上位10項目を抜粋



「助成金の紹介や活用に向けたアドバイス」の割合が 51.5% (169件) と最も高く突出。以降、「組織基盤(体制づくり・人材育成・組織内コミュニケーションなどの強化)に関する研修・個別支援」が32.9%(108件)、「広報(ホームページ・SNS・メルマガ等)に関するスキルアップ研修」が 31.7%(104件)、「ファンドレイジング(資金・資源調達等)のノウハウに関する研修」が 30.2%(99件)と続く

# Q19. とくに、市民協働推進センターに期待する支援策があれば、教えてください。

自由記述より 一部ピックアップ

## ① 助成金の紹介や活用・ファンドレイジングのノウハウ



- 「現在の居場所を継続して利用できるための**家賃支援**」
- 「助成金などの申請が複雑なため、**アドバイスや代行**などをしていただけると助かります」
- 「**収益を上げるための方策**。現在、全くのボランティア活動になってしまっているため、活動のための資金を稼ぎ出す方法を模索中です」
- 「運営資金の激減に対する、**資金調達の方法の情報提供**」
- 「社会貢献活動をしている企業などと協働して、こどもたちが楽しいと思える場を作ったり、つながり合えたらありがたいが、こちら側に**活動資金がないので主導的に進めるのが難しい**」
- 「地域のネットワーク団体で空き店舗をかりて、他の拠点を求めている団体等と新たなネットワークづくりと運営に取り組もうとしているが、**資金面で苦心**をしている」
- 「行政や企業などを行う協働事業を実施していくために、相互理解を深め、双方にとっても利益となる活動をするための**助成や補助**」

## ② 組織基盤の強化



- 「今後の体制強化に向けて事務局機能を担う**人材育成の支援**をお願いしたいです」
- 「今後、想いを持って関わってくださるボランティアの方々が当初のモチベーションを維持しながら、活動に関わってもらうためにどのようなことに留意すればいいのか、ボランティアサポーターとのコミュニケーションについて、**ノウハウ支援**を期待します」
- 「活動目的や活動分野に対する理解と共感を持ったうえで、**組織運営・マネジメントにも意欲がある人材**を求めています。どうしたら良いか？」

# Q19. とくに、市民協働推進センターに期待する支援策があれば、教えてください。

## ③ オンラインを活用した事業のスキルアップ



「ネットを活用するための**インフラ整備**に支援いただきたい。公共施設でのWiFi環境の整備やPC、プロジェクター、スクリーンなど機器の整備に注力いただきたい」  
「オンラインでの発信について、効果的な発信の仕方、動画の上手な作り方などのノウハウや、著作権を侵害せずに発信するために**必要な知識が学べる講座**を実施して頂いたり、そうした講座を行える団体を紹介して頂けたら有難いです。」

## ④ 他団体との関係づくり・他業種との関係づくり



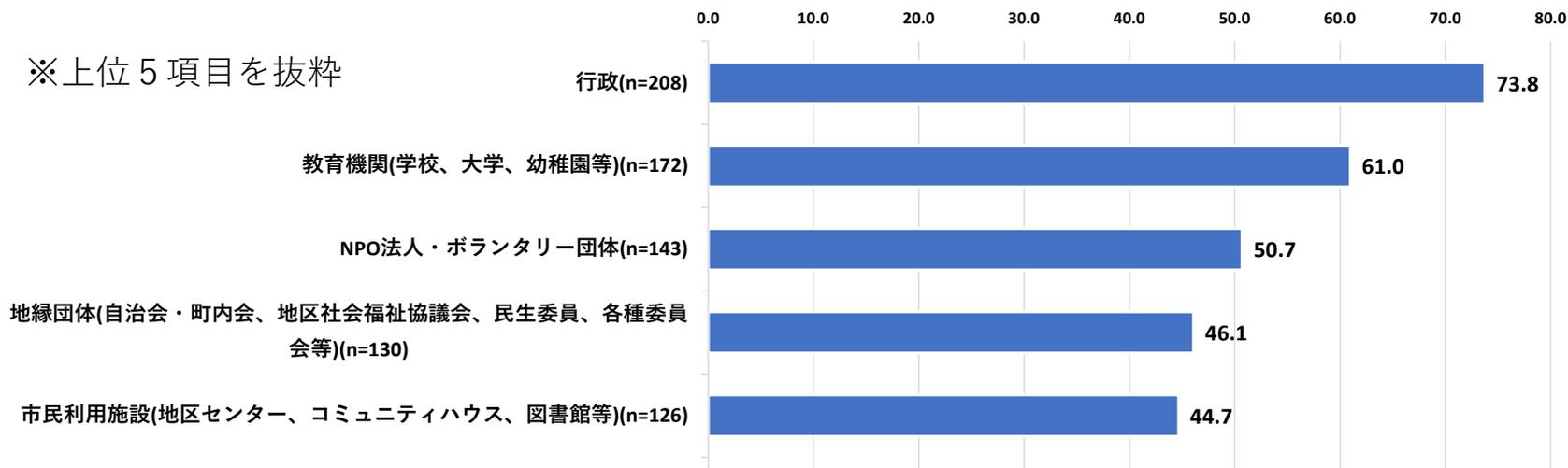
「**他の団体との情報交換会**のような場を提供していただきたい」  
「活動内容が同じ団体同士による、具体的な課題や解決策等の情報共有に加え、代表ならでの**悩みや考え方等を交換できる場**があれば…と感ずることがあります」  
「**行政との橋渡しや、市内他団体との連携、政策提言に繋げる方法**など教えていただきたい」

## ⑤ 活動の場所の提供



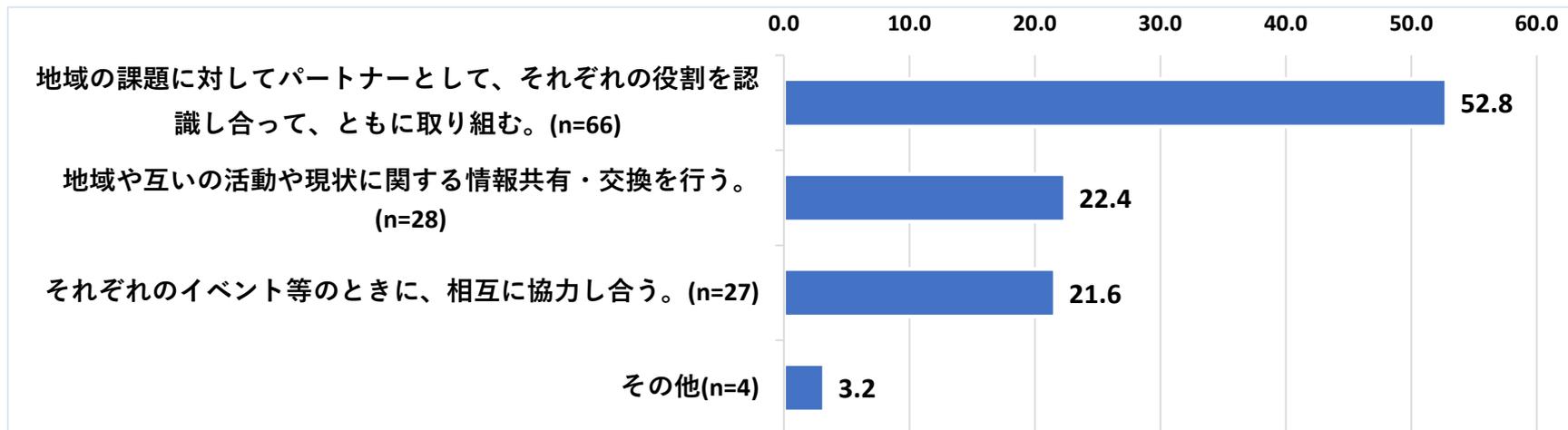
「基本的には、事務所を有していないので、会の**会議する場所取り**に苦勞している」  
「**活動（打合せ等）場所の安定的な提供**を期待します」

# Q25. 今後の事業展開等を想定して、いずれの組織・団体と連携・協働して取り組みたいと考えますか。当てはまるものを全て選んでください。



「行政」が73.8%と最も回答割合が高くなっています。以降、「教育機関(学校、大学、幼稚園等)」が61.0%、「NPO法人・ボランティア団体」が50.7%と続いています。「Q23.」の連携・協働の実績と同様、「行政」の回答割合が最も高くなっています。

## Q26. 「地縁団体」と自団体とで、どのような取組や関係づくりを進めたいと考えますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。



前ページで示したとおり、地縁団体と連携・協働して取り組みたいと考えている団体は46.1%（282件中130件）でした。

さらに、地縁団体とで想定している取組や関係づくりについて聞いて見ると、「地域の課題に対してパートナーとして、それぞれの役割を認識し合っ、ともに取り組む」意向を持っている団体が52.8%（125件中66件）でした。

# 「団体の強み・弱み」と「コロナ禍における相談の有無」から見たこと

## ▼ Q14.【外部への支援等】スコア高低群×Q8.相談の有無のクロス集計

		合計	Q8.コロナ禍で困難や課題が生じたときに、いずれかの団体や機関に相談しましたか。当てはまる方を1つ選び、☑を付けてください。		
			相談した	相談しなかった	不明
全体		328	152	176	0
		100.0	46.3	53.7	
Q14.スコア	Q14スコア低群	195	79	116	0
		100.0	40.5	59.5	
	Q14スコア高群	104	62	42	0
		100.0	59.6	40.4	

外部等への支援（団体の支援やコーディネート等）に取り組む団体の中には、コロナ禍で他の団体や機関に相談したという団体が多く見られました。自らも相談しつつ、他団体への支援に取り組むことがあることから、市民活動団体が支え合う相互支援の特性が伺えました。

# 「団体の強み・弱み」と「未だ乗り越えていない困難・課題」との関連から見たこと

## ▼ Q13. 【組織・事業の基盤】 × Q17. 未だに乗り越えていない困難・課題

		Q17.コロナ禍の影響で、自団体において、未だに乗り越えられていない困難や課題として、当てはまるものを全て選び、☑を付けてください（複数回答可）。												
		合計	職員やボランティア等、活動を進めるための人材が不足した	活動するための場所が確保できなかった	財政状況が厳しくなった	運営や活動を前に進めていくための方法・手続きが分からなかった	活動の計画や方針、見通しが立たなかった	組織の事務や体制を維持することが困難であった	オンライン化を進めるための機材やノウハウがなかった	有効な広報手段がなかった	外部と連携・協働して取り組むことができなかった	その他	とくになし	不明
Q13.スコア	Q13スコア低群	157	64	55	76	17	58	20	26	22	31	7	15	0
			40.8	35.0	48.4	10.8	36.9	12.7	16.6	14.0	19.7	4.5	9.6	
	Q13スコア高群	150	50	26	49	4	34	10	20	13	15	13	32	0
			33.3	17.3	32.7	2.7	22.7	6.7	13.3	8.7	10.0	8.7	21.3	

【組織・事業の基盤】に関するスコア低群の方が、困難や課題を選択している割合が高くなっています。この結果から、組織・事業の基盤が充分ではないと認識している団体の中には、未だに乗り越えられていない困難や課題を挙げる団体が多いことが分かり、団体の強み・弱みが、団体が抱える困難・課題と関連している可能性があると考えられます。

ご清聴ありがとうございました

